

こどもと学ぶ水俣病

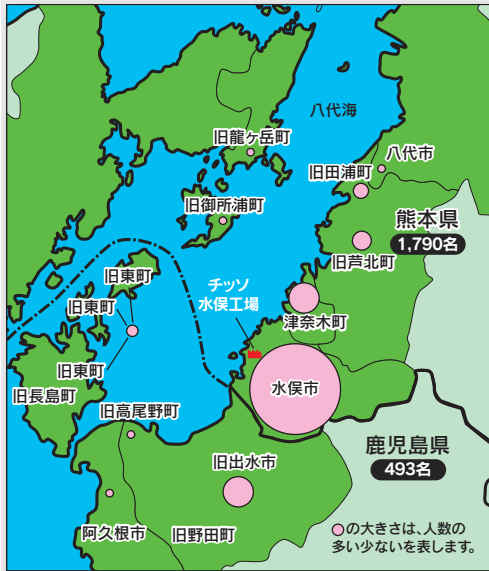
水俣病のポイント学習



1 水俣病が発生した不知火海

【水俣病が発生した不知火海は、どう変わってきたの?】

水俣病認定患者の発生分布 (2019年8月31日現在)



【水俣病認定患者の発生分布図】

水俣病が発生した不知火海は、昔は豊かな海でした。特に水俣湾は魚の産卵場所であったことから、獲っても魚がたくさんわいてくる海、「魚わく海」と言われていました。海辺では、人々は漁をしながらおだやかな生活をおくっていました。

しかし、チッソ工場が水俣湾に流した水銀を含む有害な工場排水によって、海にすむ魚たちは水銀に汚染されました。それを知らずに魚を食べていた人たちは、しだいに体調が悪くなり、水俣の海岸周辺を中心とした地域に水俣病患者が多く発生し、それまで平和だった生活はいっぺんにうばわれてしまいました。

今は、水銀に汚染された魚は処分され、水俣湾の海底にたまった水銀を含んだヘドロを取り除いて埋め立てる工事も終わり、水俣湾はきれいな海になりました。漁も再開されて、安心して魚を釣って食べたり、泳いだりできるようになり、水の透明度や汚れの度合いでくらべても、熊本県のなかできれいな海のひとつに数えられています。



今の水俣湾には
19種類のサンゴが
いることが
分かっているんだ。

2 水俣とチッソとのかかわり

【水俣病を起こしたチッソ工場ができて、
水俣のまちはどう変わったの?】

1908年(明治41)、チッソ工場が水俣にできました。チッソは化学肥料の生産を始め、やがて日本の主要な化学工場となり、戦後の日本の経済成長を支える企業の一つとなりました。

工場の発展は水俣のまちの発展でもありました。村だった水俣は人口も増えて工業都市となっていきました。

工場で働く市民もたくさんいて、経済的にも社会的にもチッソの影響を強く受けていました。

今でも、水俣市のなかではチッソ工場は大きな会社なんだよ。

チッソは水俣病を起こした原因企業として責任をはたさないといけないんだ。患者さんへの補償金の支払いを続けるためにも、環境にやさしい企業として、これからもがんばっていくことがのぞまれているんだ。

